

平成 25 年度第 3 回日本生理学会教育委員会議事録

日 時 平成25年11月23日 10時05分～12時58分
会 場 東京慈恵会医科大学 高木会館 5階F会議室

出席者 石松 秀（西九州大）、奥村 敏（鶴見大）、奥村 哲（静岡理工科大）、久野 みゆき（大阪市大）、
鯉淵 典之（群馬大）、椎橋 実智男（埼玉医大）、鈴木 敦子（健康科学大）、中島 昭（藤田保
健衛生大）、皆川 雅子（事務局）、山下 俊一（女子栄養大）（五十音順）
欠席者 河合 康明（鳥取大）、小泉 周（生理研）、松田 哲也（玉川大）、森田 啓之（岐阜大）、山中
章弘（生理研）
議 長 鯉淵 典之 委員長
書 記 奥村 哲、山下 俊一

【報告事項】

1. 前回議事録承認

平成 25 年 7 月 28 日開催の教育委員会議事録が承認された。

2. 平成25年度日本生理学会第 2 回理事会について（鯉淵委員長）

資料により本日の理事会への報告と提案が示された。

教育プログラムのバーコードによるポイント加算については、昨日の認定委員会により受講票を用いる方法に変更された。

日本生理学会「エドゥケーター」認定制度規約について、本日の理事会で承認を得る（制定年月日を本日とする）。承認された規約を日生誌に掲載する。

理事長副理事長会議より、会員宛に経過措置を使ってエドゥケーターを取得するよう、認定委員会委員長名で継続的に呼びかけて欲しいとの要望があった。

認定委員会は組織図上、教育委員会と横並びになる（教育委員会委員長は関与しない）。教育担当理事がオブザーバーとして参加する。

副委員長の選任は委員長に一任する。

生理学エドゥケーター認定の実施要領と今後の工程については、本日の理事会、および鹿児島大会で総会の承認を得る。その後に認定受付が開始される。

2015 年 3 月の認定試験実施に向けて、試験範囲や作問方法を決定する。認定委員会では、解剖生理学クリアブックを参考図書として指定し、受験者への便宜を図る案が考えられている。著作権に配慮し、選択肢を変更する等により新作問題としつつ、ブラッシュアップ等の工数を削減する。

3. アウトリーチ・タスクフォース委員会について（鈴木委員）

前田委員長に生理学会のアウトリーチに関しては、アウトリーチ・タスクフォース委員会を中心にとりくんでいくことをメールし了解を得ている。しかしながら、アウトリーチ・タスクフォース委員からは具体的な意見は聞かれない。

学会ホームページを利用したアウトリーチ（一般向けのコンテンツ等）については、アウトリーチ・タスクフォース委員会を中心にやっていく。ホームページのデザインや技術については、能登印刷と編集広報委

員会の担当者（山下委員）が対応するので、コンテンツについて提案をお願いしたい。

教育委員会としては、教育のページにコンテンツを置き、アウトリーチのコンテンツからリンクを張るようにしたい。モデル講義や教育講演の演者にホームページで公開する許可を得られた資料（例えば鍋倉先生の Power Point）については公開教育リソースとして教育のページに掲載する。

4. 生理学会雑誌「Education」について（久野委員）

現在日生誌の紙媒体を残すかどうか編集広報委員会を中心に議論されているが、理事長副理事長会議からは残す要望が出ている。特に Education は多くの会員が読んでいるので紙面に残す要望が強い。

2014 年 1 月号と 3 月号に、それぞれ岡田絵里子氏（藤田保健衛生大学医学部 2 回生）、佐伯由香先生（愛媛大学大学院医学研究科看護学）を予定している。その後、鈴木委員の紹介による原稿、鯉淵委員長の紹介による Robert Carroll 教授（American Physiological Society）による原稿を予定している。鹿児島大会の教育プログラムの後に、演者の田川まさみ先生に椎橋委員より教育理論について執筆を依頼する。

5. 生理学会ホームページ構築の進捗状況（山下委員）

春から夏にかけてホームページリニューアルを依頼する業者を選定し、石川県の能登印刷と契約した。

10 月に能登印刷と今後の工程について相談した。現在、現ホームページから移行するコンテンツの検討中である。

リニューアルにあたってはトップページの構成がポイントになるが、生理学教育関連のボタンを一つ設置し、教育関連コンテンツ（例えば模擬授業のビデオへのリンク）、公開教材等のリソース、教育プログラムのポイント確認（マイページ）等が辿れるようになっていれば良い。

アウトリーチについては本リニューアルの大きな目的であるが、上述のようにアウトリーチ・タスクフォース委員会を中心に進めてゆく。

6. 認定委員会について（中島委員）

昨日の第 3 回認定委員会の資料が配付され、議事の報告があった。

本日の理事会で規約と実施要領の承認を受ける。

予算案については理事長副理事長会議に提出している。

出願料 5 千円、認定更新料 1 万 5 千円とし、200 人くらいが認定を受けるとすれば、収入は約 300 万円になると予想される。一方、支出は様々な経費が 150 万円程度予想される。

マイページについては事務局皆川さんから報告があり、夏の納品予定だったが、選挙の電子投票システム構築に時間がかかり遅れている。生理学会の年度末である 12 月までに納品・稼働開始予定である。

出席カウントについては、会員番号とそのバーコードが入った受講票を印刷し、会員個人宛に生理学会雑誌に同封して郵送する方法を検討している。受講票をプログラムとともに印刷することで、プログラム内容を周知する効果も期待できる。

受講票の会員番号を日生誌の送り先と一致させながら同封する作業は杏林社が行う。

受講票は忘れたり紛失する可能性がある所以对策とバックアップが必要だが、いくつかの方法が考えられる。

① 2 部作成して、1 部はバックアップとして大会事務局に置いておく。

② 大会プログラム集に教育プログラムに関する注意事項のページを 1 ページ作り、受講票についても記載する。

③受講票の同封についてメールで流す。

④大会の参加証に受講票について注意を書く。

⑤受講票の pdf をメールで送るかマイページに置いておく→今回は間に合わなくても将来実施できれば受講票を郵送する必要がなくなる。

来年4月以降の認定開始に伴う準備を始めておく必要がある。

これにともない、来年3月を目処にQ&Aを作っておくのが良い。各学会の認定にともなうQ&Aを事務局にリサーチしてもらう。

疑問点は認定委員会で全部リストアップし、一般に周知すべきものはホームページにQ&Aとして掲載する。

一般に周知する必要はないが、認定委員会内で確認しておいた方が良いことは一般用（ホームページ用）Q&Aとは別に作成しておく。

本日の理事会での承認を受け、日生誌1月号に会費を払わないとエデュケーターに登録できないことを明記する。

【討議事項】

1. 教育委員会委員の交代について

小泉周委員が総合研究大学院大学の実務職に異動になったことにともない、所属部署が生理学会教育委員としては適当ではないと辞退の申し出があったため、生理研から深田優子先生が紹介され、承認された。

アウトリーチ活動の拡大やFAOPS（2019年開催）への対応等を考えて、今後教育委員の増員を考慮する。

FAOPSへの対応では女子栄養大学短期大学部 渋谷まさと教授（元教育委員）の参加が必須と考えられる。

2. 今後の教育委員会の会計について（鯉淵委員長）

教育プログラムの旅費と謝金については下記のように確認した。

- ・生理学会の会員には旅費は出さない。
- ・非会員には旅費を支払う。前泊後泊については生理学会規約による。
- ・謝金は教育講演とモデル講義は原則3万円。モデレーターは1万円とする。

支払や税金の処理等については学会事務局に任せる。

3. 鹿児島大会教育プログラムについて（石松委員・椎橋委員）

資料により鹿児島大会の教育プログラムについて説明があり、下記のように委員の役割分担と機材配置を決定した

モデル講義は3題で、看護系を1題含めた（福岡県立大・看護 田中美智子先生）

教育講演は7題で、運動系を1題含めた（鹿屋体育大学・スポーツ生命科学 竹島伸夫先生）

17日にツムラによるランチョンセミナー「（和漢、基礎・臨床）統合型医学教育」（鹿児島大学・医学部 システム血拴制御学講座特任教授丸山征郎先生）が予定されている。

会場：モデル講義・教育講演 稲盛会館

ランチョンセミナーは稲盛会館の別会場となるため、バーコードリーダー等の対応が必要。

座長：モデル講義 鯉淵委員長

教育講演 17日午後 鈴木委員、18日午前 石松委員、18日午後 椎橋委員

ビデオ：石松委員、椎橋委員、中島委員

ポスターボード：生理学エドゥケーター（中島委員担当）、国際医学生生理学クイズ大会（石松委員担当）の
広報ポスターを作製して貼る。稲盛会館に設置することを亀山大会長承認済。

受講受付：バーコードによるポイント加算については昨年と同様の人員態勢で対応する。教育プログラムの
各パートに対し3名（午前3名、午後3名）をツムラ MR または学生アルバイトで確保する。

モデル講義聴講学生ボランティア：20名程度の学生を確保する。鯉淵委員長から亀山大会長、椎橋から田川
先生、鈴木委員から田中先生に呼びかけを依頼する。

4. 今後の教育委員会の活動について

他委員会との連携

広報委員会・将来計画委員会：アウトリーチを軸に連携（上述）。

集会委員会：関係強化が必要。

他学会との連携

解剖学会とは神戸大会合同開催で連携する機会がある。学生セッションも計画されており、研究志向学生
のコンソーシアム等を通じて多数の参加が予想される。生理学会でも解剖学会と同様に参加した学部
生を表彰するなど、学生に対する積極的な働きかけが必要と思われる。

薬理学会ではエドゥケーターの開始が決定されている。

国際化

FAOPS では教育関連のセッションを強化する必要がある、教育関連プログラムの国際化（英語化）が求め
られる。グループディナーのようなソーシャルプログラムも必要と考えられる。教育サテライトWSの
開催が必須とされているが、FAOPSの会場が神戸の場合はIUPSのサテライトWSで利用したニチイ学館、
名古屋が会場になった場合も同様の施設で行う。

以上